No.146
2021
Autumn

Hachinohe Institute of Technology Press SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication

CONTENTS

八戸工業大学

p2−3　学園祭延期／ミニ国体出場／日本蘚苔類学会ロゴマーク採用／マチナカ公開講座／新工学部スタートへ／ SDGs への取り組み（大学等コアリション／しまもり SDGs ／エコラン）

p4−5　HIT 土木工学基礎プログラム／ひらないカレッジ開催／防災教育の推進（防災教室／防潮堤壁画プロジェクト）／ Web 同窓会／幼稚園で作品展示／科学の祭典／進学相談会／論文賞／オープンキャンパス実施／2022年度入試／11月～１月予定

八戸工業大学第一高等学校

p6−7　全国高等学校総合体育大会／全国選抜アイスホッケー大会／新ロゴマーク／高総文将棋／普通科救命講習会／高校生ものづくりコンテスト／体験入学／部活動体験見学会

八戸工業大学第二高等学校

p8−9　コース改編／ SDGs オンライン留学／英語力向上プログラム／ Fair Trade ／六ヶ所エネルギーパーク見学／三浦哲郎展講演会／味噌玉／文房具寄贈ボランティア／音訳ボランティア／ Re:ゼロから始まる羊毛細工／美術コース３年生グループ展

さくら幼稚園

p10−11　作品展示会／卒園児からのメッセージ／ようちえんってこんなところ／とらんぽりん

八戸工業大学第二高等学校附属中学校

p12　校外学習／「科学の甲子園ジュニア」青森県大会／知財創造力育成授業

p12　理事会・評議員会／幼稚園50周年

Mobile & iPhone & Android
◀◀◀モバイルサイトへアクセス

学園祭延期

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため日程と実施形態を変更し、学園祭が11月６日（土）に大学関係者のみを対象に開催される。一般来場者の入場はなく、11月予定されている文化会主催『彩才祭』も学園祭と合同で実施される予定。

東北総合体育大会･ミニ国体で活躍

８月20日～22日、山形県で開催された第48回東北総合体育大会・第76回国民体育大会東北ブロック大会において、卓球競技とバレーボール競技で本学学生が活躍した。

卓球では大澤翔吾さん（土木建築工学科３年／東奥学園高・上写真）が成年男子において、青森県代表の一人に選ばれた。

バレーボールでは白石雄大さん（土木建築工学科４年／岩手・黒沢尻工高・下写真後列左から２番目）と谷口慶真さん（機械工学科１年／むつ工高・下写真前列左端）が成年男子において、青森県代表の一員として選ばれた。

日本蘚苔類学会ロゴマークに採用

日本蘚苔類学会創立50周年記念事業、新ロゴマークコンペで貝塚彩乃さん（創生デザイン学科４年／八戸工大二高）の作品が、みごと採用された。９月４日第50回宮崎大会総会において作品が発表され、オンラインで表彰式が行われた。

９月14日に記者会見が行われた席上、貝塚さんは、「ロゴマークは『ルーペでコケを観察する』体験を、研究者・学識者らが常に持ち歩くルーペにシンボライズさせてデザインし、一般の方にもワクワク感が伝わるようルーペの中に愛らしいタマゴケを配置しました。学会名は英語表記として、日本蘚苔類学会が世界に発信していくことを願ったものです」と語った。

採用されたロゴマーク

当学会広報幹事でもありNPO法人奥入瀬自然観光資源研究会の監事でもある生命環境科学科鮎川恵理准教授は、「屋外でコケを観察する人の目線に立ったロゴであり、親しみを感じる。これを機会に多くの方がコケに目を向けてくれることを期待する」と述べた。

マチナカ公開講座

八戸市中心街を会場に５月から開催しているマチナカ公開講座には、多くの市民の方々にご参加いただいている。

～終了した講座から～

◆菱刺しは南部のダイヤモンド◆

創生デザイン学科
准教授　**川守田礼子**

菱模様と色彩が美しい菱刺しの世界を紹介。当日は多くの参加者がポータルミュージアムはっちに集まり、菱刺しの魅力について意見交換するワークショップも行われた。

耳で味わう『盆土産』

基礎教育研究センター
准教授　**岩崎真梨子**

三浦哲郎の『盆土産』を題材に、イントネーションを目で見て南部弁の魅力を分析。マチニワにて開催され、開放的な空間で幅広い年齢層の人が聴講した。

Depth Cameraによる３次元マップの自動生成

電気電子工学科
准教授　**神原　利彦**

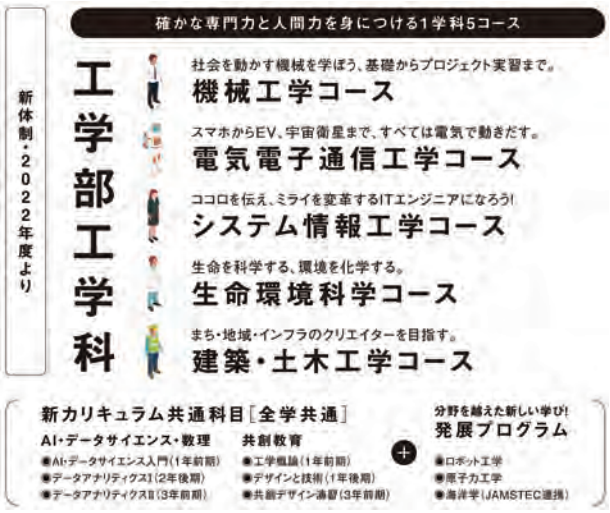
Depth Cameraというカメラセンサを使って立体的な３次元マップを生成する技術を紹介。実際にカメラを使用しての講座となった。

新工学部誕生！

2022年４月、工学部５学科を統合し工学部工学科（５コース制）がスタートする。

AI・IoT 時代にふさわしい専門力と人間力を備えた人材育成を目指し、コース制を採用することで柔軟なカリキュラムへと進化。２年進級時に、他のコースへの変更も可能だ。感性デザイン学部との横断的な共育による「工学×デザイン」の融合の共創教育で、幅広い素養を持った人材の育成を目指していく。

また、創生デザイン学科は感性デザイン学科へ名称変更を予定しており、地域での活動を基盤に、確かなデザインのチカラを身につけることを目指す。



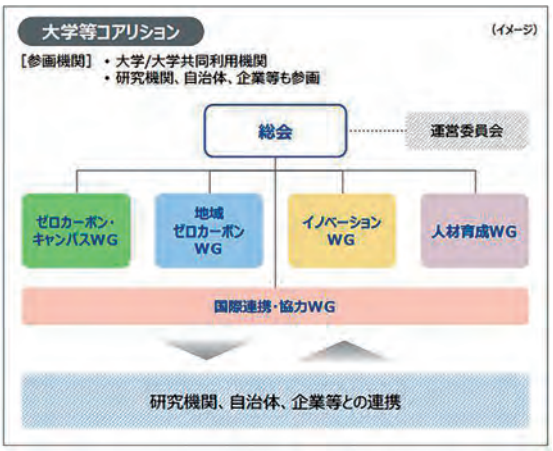
SDGs への取り組み

「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に加盟

７月29日、本学は関係省庁（文部科学省、経済産業省、環境省）で設立された「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に加盟した。

このコアリションは、2050年までの脱炭素社会実現に向けて、国、自治体、企業、国内外の大学等との連携強化を通じ、国・地域の取組に資する研究開発や社会実装の推進、地域のゼロカーボン化などに係る機能や発信力を高めるための「大学等間ネットワーク」である。

このネットワークが設ける５つのワーキング・グループ（WG）のうち、本学は「地域ゼロカーボンWG」に参画する。これにより、自治体ネットワーク等と連携した取組と、成果共有のためのワークショップの開設や、地域の計画に役立つ知見を創出する研究グループの創設などを、大学間の連携により取り組んでいくこととなる。



参考：文部科学省HP資料より

しまもりSDGs再エネの取組

本学では八戸市島守地区を舞台に、地域の問題解決を通じて SDGs の達成を目指した教育・研究活動「しまもりSDGs 実践プロジェクト」（代表：生命環境科学科星野保教授）が実施されています。

島守地区は周囲を山地に囲まれた盆地のため、積雪による電線の断線・停電が長年の大きな問題となっています。このことから、住民の方々に再生可能エネルギー（再エネ）の利用体験を通じた理解を進め、地域への再エネ普及拡大を図っています。

また、新井田川や地形を生かし電力に頼らない簡易的で小規模な電源（オフグリッドシステム）の構築を検討しています。これにより、停電時に再エネを活用して電力供給することを目指しています。

電気電子工学科講師　**花田　一磨**

エコランの取り組みから

動力研究部では、燃費を競うホンダエコマイレッジチャレンジエコランや走行距離を競うワールド・エコノ・ムーブなどに参戦するため、日々競技マシンの改良に取り組んでいる。

また、エコランを通じてガソリン車の燃費向上への創意工夫、マシン作製を通じて技術の取得に努めている。

エコランチームには女性だけのチームや、ドライバーを女性が務めることも多く、ピット内は男女差を感じさせないほど全員が知恵や技術を存分に発揮する場となっている。

我が部には、女性部員が２名在籍しているが、世の中では偏見や先入観のせいで本来の能力を発揮できない事が多い。エコランの現場から、ジェンダーレス社会への意識改革が少しでも進められたらと思う。

動力研究部

石戸　三奈（機械工学科４年／青森西高）
髙島　琉汰（土木建築工学科３年／北海道・旭川実業高）
杉山　純一（機械工学科２年／岩手・久慈工高）

社会人向け「HIT土木工学基礎プログラム」スタート

若手土木技術者を対象に、地域の将来を担う人材（能力）養成を目的として「HIT 土木工学基礎プログラム」が開設された。土木工学６分野について３年間履修することにより、土木技術者に必要な専門分野の“基礎的事項”を身に付けることができる。

８月25日の記者会見では、大学院社会基盤工学専攻金子賢治教授が、地元建設業において技術者が高齢化し担い手が不足している現状に言及。本学が持つ知的財産を地域に還元することは、その課題解決の一端を担うことに繋がると説明した。共催している青森県建設業協会上北支部柏崎尚久氏と、青森県土木施工管理技士会上北支部羽賀義広氏から、専門分野を体系的に学べる機会は貴重であり、業界のレベルアップを期待するとの声が寄せられた。

１年目の今年、オンラインを併用し、材料と環境分野について計20時間の講義が開始となった。

「ひらないカレッジ」で講演

８月４日、平内町教育委員会が主催する「ひらないカレッジ」の一環で、「ふるさと歴史講座～浅所小学校白鳥観察記録と浅所海岸の環境～」というタイトルで講演した。この講演は「八戸工業大学公開講座」でもあり、講座の様子が地元ＴＶ番組でも放映された。

会場には児童達よる手書きの観察日誌が年代順に展示され、参加者は熱心に閲覧していた。参加者の中には、当時白鳥の個体数記録を担当していた「もと小学生」の方もおり、ご自身の記録した日誌を懐かしそうに眺めておられた。長期にわたる高頻度の生物個体数変動に関する観察記録の価値が高いことを直接伝えることができ、嬉しく思う。

生命環境科学科教授　**田中　義幸**

防災教育の推進

防災教室開催

８月19日、八戸市立轟木小学校にて防災教室を行った。これは、八戸市教育委員会が行っている防災教室支援事業に協力するもので、同校が実施予定している津波避難訓練についてアドバイスしてほしいとの要望に応じたものである。

前半では、まず導入として大川小学校（宮城県石巻市）の事例を挙げて教育施設に求められる防災について説明。理解を深めてもらうため、津波に関する基礎知識を、動画等を交えながら解説した。

後半では、事前に避難経路を歩いて撮影した写真を示しながら、危険が潜む場所を教職員の皆さんと一緒に再確認した。さらに、課外活動で学区を離れている時や登下校時等、多様なケースに備えて避難のシナリオを作ることの重要性をお話しさせていただいた。

土木建築工学科教授　**加藤　雅也**

防潮堤壁画プロジェクト

東日本大震災から10年となった今年、復興庁「心の復興」事業に採択され、岩手県山田町にて、震災後に建設された防潮堤への壁画制作プロジェクトを開始した。

本学では、学生による震災復興支援ボランティアや硬式野球部による交流活動を山田町で行ってきた。本プロジェクトはこれらの活動を継承し、硬式野球部で久慈市出身の大久保航也さん（創生デザイン学科４年／八戸工大一高）、山田町出身の堀合紳弥さん（大学院博士後期課程１年）を中核に、学生有志によるコンクリートの壁面（高さ７m 全長約250m）への描画を行っている。

復興に終わりがないように、壁画にもあえて完成を設定せず、毎年描き換えていく継続的な地域交流活動を目指している。

創生デザイン学科准教授　**皆川　俊平**

Web同窓会開催

10月２日「第20回同窓生の集う会」が、YouTube ライブと Zoom ミーティングで開催、多くの同窓生や旧教職員が参加した。司会は、齊藤克治さん（2003年システム情報工学科卒業）と赤石美友さん（2021年創生デザイン学科卒業）（表紙写真）が務めた。

福士信雄同窓会会長からの開会挨拶に始まり、坂本禎智学長から学部・学科の改組と50周年に向けた活動について、説明があった。

途中、大学のイメージ動画や近況報告大学の歴史や過去の写真が紹介され、最後は同窓生から届いたたくさんのメッセージが紹介され閉会となった。

幼稚園作品展、学生作品を展示

10月２日、さくら幼稚園の作品展示会に感性デザイン学部の有志が参加し、段ボールアートの巨大な虫やアニマル探検迷路を出展した。

自分の背丈より大きな虫やニンジンなどの段ボールアートに泣き出してしまう子もいたが、園児らは、アミューズメントパークさながらの作品と演出を楽しんでいた。

学生は狙い通りの園児のリアクションに笑みをこぼしていた。

今後は土木建築工学科によるペットボトルロケット発射実験など、さくら幼稚園とのコラボレーション企画を予定している。

科学の祭典八戸大会

８月７日・８日、「青少年のための科学の祭典2021」八戸大会が八戸市福祉公民館を会場に、市内小学生を対象として完全予約制で行われた。

本学からは「スピードガンを使って投球スピードをはかろう」、「南部弁の方言クイズ」や鉄道研究会による「コイルのトンネルに電車を走らせよう！」などが出展された。限られた時間内に子どもたちが多くの科学体験やものづくりができるよう、演示講師の工夫が発揮された祭典であった。

進学相談会

※変更する場合があります。
ご注意ください。

開催日	時間	開催地	会　場
11月４日(木)	13:30～17:30	青森	むつマエダアリーナ
11月９日(火)	14:00～18:00	青森	青森県武道館
11月11日(木)	14:00～18:00	青森	きざん八戸
11月17日(水)	15:00～18:00	秋田	アルヴェ
12月１日(水)	15:00～18:00	青森	アートホテル弘前シティ
12月２日(木)	15:00～18:00	青森	八戸プラザアーバンホール
12月３日(金)	15:00～18:00	岩手	アイーナ

高瀬准教授、論文賞受賞

土木建築工学科高瀬慎介准教授が、計算工学の発展に顕著な貢献をしたと認められ執筆者の一人として2020年度日本計算工学会「論文賞」を受賞した。

論文タイトル：「数値解析結果の空間モード分解による津波のリスク評価」

オープンキャンパス実施

８月７日・８日、事前予約制と人数制限を行い、夏のオープンキャンパス2021が開催された。本学の概要説明の後、保護者向け説明会、生徒向けの学科・コース見学が行われた。

学科で教員や学生スタッフから詳しく説明を受け、初めて見る装置や機械に驚きの声をあげる生徒もいた。

次回実施は来春を予定している。大学の情報は今後、本学ホームページやメディア等で発信していく。

2022年度入試日程

入試区分		願書受付期間(必着)	試　験　日
総合型選抜試験	第2クール	11月17日(水)～11月26日(金)	12月４日(土)
	第3クール	１月24日(月)～２月２日(水)	２月14日(月)
	第4クール	２月28日(月)～３月４日(金)	３月９日(水)
学校推薦型選抜試験	指定校制	11月１日(月)～11月５日(金)	11月13日(土)
	公募制	11月29日(月)～12月７日(火)	12月15日(水)
一般選抜試験	前　期	１月４日(火)～１月25日(火)	２月２日(水)
	後　期	２月14日(月)～２月24日(木)	３月４日(金)
大学入学共通テスト利用選抜試験	前　期	１月４日(火)～１月25日(火)	2022年1月15日(土)・1月16日(日)の大学入学共通テスト
	中　期	２月１日(火)～２月14日(月)	
	後　期	２月28日(月)～３月14日(月)	

11月～1月の予定

※予定変更の場合があります。大学 HP で確認ください。

11月13日	学校推薦型選抜試験指定校制
12月４日	総合型選抜試験第２クール
12月15日	学校推薦型選抜試験公募制
12月25日～１月５日	冬季休業
12月28日～１月３日	大学事務業務休業
１月15日・16日	大学入学共通テスト
１月24日～28日	後期定期試験

令和3年度　全国高等学校総合体育大会

レスリング部

ソフトテニス部

登山部

アイスホッケー部

全国高等学校総合体育大会結果

団　体

登山
団体9位　8月20日～23日　福井県勝山市

中曽根知希　（総合コース3年／根城中）
佐々木大翔　（情報電子通信コース3年／大館中）
椙村　春道　（情報電子通信コース3年／北稜中）
東　　宏人　（情報電子通信コース3年／根城中）

ソフトテニス男子
団体戦　ベスト16　7月29日～31日　石川県能登市

東　淳之介　（特別進学コース3年／岩手・中野中）
苫米地勝成　（スポーツ進学コース3年／三本木中）
荒関　慶斗　（公務員コース3年／浪打中）
笠嶋　　怜　（公務員コース3年／大平中）
齊藤　春汰　（公務員コース3年／岩手・種市中）
沼尾　慎也　（情報コース3年／東中）
櫻橋　隼人　（電気コース3年／秋田・将軍野中）
戸沢　佳太　（電気コース3年／秋田・森吉中）

個　人

レスリング
51kg級　第3位　8月24日　福井県おおい町

小川　大輝　（機械コース2年／十和田東中）

125kg級　第3位

永野　颯大　（公務員コース3年／下長中）

ソフトテニス男子
個人戦（ダブルス）第3位　7月29日～31日　石川県能登市

東　淳之介　（特別進学コース3年／岩手・中野中）
苫米地勝成　（スポーツ進学コース3年／三本木中）

自転車競技
ポイント・レース　決勝　10点　第8位　8月20日～23日　福井県福井市

齊藤英伊須　（電気コース3年／大館中）

令和3年度 第16回全国選抜アイスホッケー大会

8月1日～9日　白鳥アイスアリーナ　北海道苫小牧市

準優勝

石ヶ森千隼　（スポーツ進学コース2年／一中）
金本　怜恩　（スポーツ進学コース2年／湊中）
佐々木清吉　（スポーツ進学コース2年／堀口中）
佐藤　楓雅　（スポーツ進学コース2年／北海道・別保中）
澤口　　輝　（スポーツ進学コース2年／根城中）
高橋　宙来　（スポーツ進学コース2年／宮城・広瀬中）
千葉　俊介　（スポーツ進学コース2年／宮城・館中）
中川原貫真　（スポーツ進学コース2年／根城中）
中村　翔瑛　（スポーツ進学コース2年／湊中）
平井　遥斗　（スポーツ進学コース2年／栃木・栃木東中）
米田　迅一　（スポーツ進学コース2年／北稜中）
三浦　秀瑛　（スポーツ進学コース2年／宮城・沖野中）
月舘　悠汰　（スポーツ進学コース2年／下田中）
黒丸隆太朗　（公務員コース2年／湊中）
平　　一天　（公務員コース2年／湊中）
石川　周人　（情報電子通信コース2年／東京・光が丘第三中）
後村　統矢　（スポーツ進学コース3年／北稜中）
志賀　　司　（スポーツ進学コース3年／千葉・明海中）
寺地　優人　（スポーツ進学コース3年／湊中）
東條瑛太朗　（スポーツ進学コース3年／一中）
圃田　　樹　（スポーツ進学コース3年／北稜中）
村上　　新　（スポーツ進学コース3年／栃木・栃木東中）
渡辺　将歩　（スポーツ進学コース3年／北稜中）
米山　　海　（公務員コース3年／福島・熱海中）

工大一高包装紙完成

本校をイメージしたロゴマーク完成。９月16日、八戸工業大学にて感謝状贈呈式が行われ、藤澤重信校長より制作者である貝塚彩乃さん（創生デザイン学科４年）へ感謝状と記念品が贈られた。

ロゴマーク入りの包装紙は本校のイメージカラーであるグリーンを基調とし、KODAI １の白文字が映えるデザインとなっている。O（オー）の文字は「人の輪」「地域の輪」「友情の輪」の意味が込められた正円となっており、受け取った方に親しみを持っていただけるデザインである。

将棋部　全国高等学校総合文化祭

全国高等学校総合文化祭（紀の国わかやま総文2021）将棋部門の大会が７月31日～８月１日に那智勝浦町体育文化会館で行われ、本校から中村叶愛さん（普通科総合コース３年／江陽中）が女子個人戦に出場した。中村さんは予選を３勝１敗の成績で見事突破して決勝トーナメントに進出した。決勝トーナメントでは２回戦で敗れたものの、ベスト16という満足のいく結果で締めくくることができた。

救命講習会

８月10日、３年普通科スポーツ進学コース生を対象とした普通救命講習会を行った。

当日は、日本赤十字社青森県支部の指導員の方から、「救急法基礎講習」の指導をしていただいた。救助における心構えや実体験からの事例を交えながら、救命の連鎖の大切さや救命措置の手順など状況に応じた対応力が求められることを学ぶことができた。

参加した生徒は、「救命措置が必要な場面に遭遇した時、今日学んだ知識やスキルを、勇気を出して発揮したい」と感想を述べていた。

高校生ものづくりコンテストに出場

令和３年度高校生ものづくりコンテスト「測量部門」青森県大会兼東北大会予選会が、７月29日に青森工業高等学校で開催された。本校から大谷紳君（土木コース２年／浪岡中）、大野京太朗君（土木コース２年／川内中）、関添聖君（土木コース２年／岩手・長内中）の３名が出場した。生徒達は「初出場ということの緊張感、そして、他校の作業スピードに驚き、焦りから思うように点数がとれなかったが、最新機器を使用し高精度に計測する技術を身に付けることができた。次年度は操作技術を向上させ計算を早く行い入賞を目指したい」と話した。

体験入学

８月18日～20日、県内の中学３年生を対象にした体験入学を行った。入口での検温と健康チェック、ソーシャルディスタンスを確保し、混乱することなく無事終了することができた。

コロナ禍により、参加を見合わせる中学生があったものの、500名を超える参加があり、普通科と工業科に分かれて体験をしてもらった。

普通科では、４コースの特徴を分かりやすく伝えた。特にスポーツ進学コースの体験では、タンパク質が体の組成で重要であるということを講義し、大変評判がよかった。

工業科では、令和４年度入学生から工業科の一括募集が始まるため、新しい４コースに分かれて体験をしてもらった。各コースとも工夫を凝らした充実した体験となり、参加した中学生からは笑顔が見られた。今回の体験入学も、在校生が前面に出て中学生をもてなした。丁寧な対応が好評価を得ていることがアンケート調査からうかがえた。

第１回部活動体験見学会

８月21日、感染症対策を万全に行った上で、第１回部活動体験見学会を開催した。100名の中学生が本校部活動の体験に参加、本校の取り組みに対する関心の高さが感じられた。

サッカーやバスケットボールなど経験ある運動部をはじめ、アーチェリーや自転車競技、ラグビー、ダンスといった中学校にはない運動部、吹奏楽部や写真部などの文化部も体験してもらった。

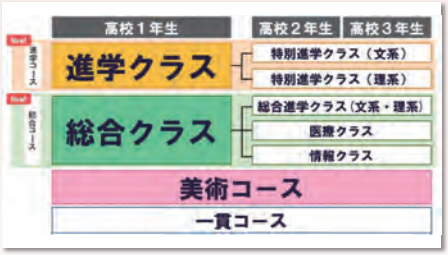
各部では楽しそうに部活動を体験し、帰りには満足げな表情が見られた。参加した中学生のアンケートには「雰囲気が良かった」、「分かりやすいアドバイスでした」などの感想があった。

コース改編

来年度、本校はコースの改編を行い、従来の一貫コースと美術コースに、新たに進学コースと総合コースを設置した４コース制となります。

進学コースは２年生から特別進学クラスとして文系と理系のクラスに分かれ、大学入試に必要な５教科の勉強と豊富な課外活動でスキルアップを目指します。

総合コースは２年生から総合進学クラス・医療クラス・情報クラスの３クラスに分かれます。１年生の間にじっくりと進路について考え、２年生から将来のために必要となることを具体的に学んでいきます。



ECバーチャル・ジュニアサマープログラム

７月９日～15日、放課後の時間を使い、19名の生徒がオンライン留学に挑戦した。

この活動は、５日間の集中的な海外留学の疑似体験を通して、様々な国籍の人たちとの交流の中で自分の考えを発信する力の醸成、SDGsの17「パートナーシップで目標を達成しよう」への理解、そしてグローバル・シチズンシップの修得を目的とした取り組みである。

世界各国から留学生が集うマルタを拠点とする語学学校EC English Language Centresが主催のオンラインプログラムで、現地講師による講義や多彩なアクティビティを通して生徒は国際性を培った。初めは発言することに躊躇していた生徒たちも、回を重ねるごとに活発になり、最終日には笑顔で終えることができた。

異文化理解・英語力向上プログラム

８月19日、中学生を含め18名が異文化理解・英語力向上プログラムに参加した。

この活動は、階上町の海岸および観光地に足を運び、訪れた場所を地域の環境･文化的観点から理解し、SDGsの11「住み続けられるまちづくりを」･17「パートナーシップで目標を達成しよう」について考えることを目的としている。

生徒たちは、階上町産業振興課商工観光グループのニコラス・ローレンス・スワンソン氏から英語で説明を受けながら､小舟渡海岸を始めとした観光地を散策した。参加した生徒は､「英語で聞いたり話したりすることで、新たな視点で観光資源について考えることができた」と話した。

Fair Trade

持続可能な社会の開発を目指し、本校生徒29名がフェアトレード商品の販売に取り組んだ。

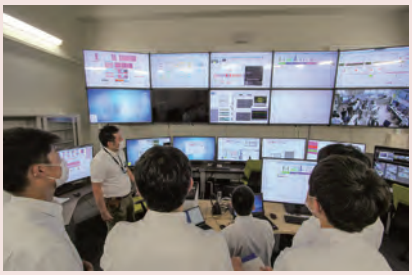
生徒は６月15日にNPO法人LOOB JAPANの理事である吉永幸子氏と、ピースウィンズ・ジャパン海外事業部モンゴル担当の大石雅美氏の講演を聞き、国際協力について学んだ。

その後の文化祭と体験入学で、フィリピンの方々が手作りした雑貨製品と、東ティモールの小規模農家が生産したコーヒー販売を行った。参加した生徒は､「自分が手伝える範囲で、今困っている人を助けられるということを全校生徒に知ってもらえてよかった」と話した。

六ヶ所村次世代エネルギーパーク見学

８月18日、六ヶ所村次世代エネルギーパーク見学を実施した。六ヶ所村には、風力・火力・原子力・再生可能エネルギー・核融合エネルギーといった、現在を支え未来を創るエネルギーの関連施設が集まっている。

生徒は環境科学技術研究所と六ヶ所核融合研究所の２カ所を見学。身近な場所に国内最先端の研究施設が存在し、国際的な共同研究が行われていることを知ることができた。参加した生徒は「今勉強しているSDGsと関連付けて見学することができた」と話した。



三浦哲郎展

７月25日、八戸ブックセンター 開館５周年記念ギャラリー展「中高生に伝えたい三浦哲郎」のトークイベントが、八戸ポータルミュージアムはっちで開催され、本校生徒15名が参加した。

郷土ゆかりの作家三浦哲郎にちなんだ企画展を記念したこのイベントでは、展示デザインを監修した彫刻家の飯田竜太氏が、三浦哲郎の短編小説を作家のエピソードをまじえて紹介。三浦哲郎の世界観をどのように本質化し、芸術作品として表現・構成したか、その創作秘話を知る貴重な機会に、生徒は熱心に聞き入っていた。

味噌玉から新しい食品を
～日本菌学会でオンライン発表～

８月26日、カレッジコース３年畠山桜さん（七百中）、相内彩果さん（小中野中）、磯島友紀さん（白銀南中）、村上清佳さん（木ノ下中）が、日本菌学会第65回大会（オンライン開催）の中高生ポスター発表に参加した。

４名は八戸工業大学生命環境科学科星野保教授の下、八戸市島守地区に伝わる味噌玉から菌類を採取・分析する研究を行っており、その成果を発表した。参加者たちは「発表は緊張したが、他校の研究発表に興味が沸いた」「研究活動は地道で大変だったが実験がうまくいったときはやりがいを感じた」「南郷での味噌玉作りは良い経験になった」など話していた。

「途上国に文房具を贈ろう」

６月、３学年の探究活動の一環で、途上国の子どもたちに文房具を送る活動を行った。

この活動は昨年度の３年生有志がスタートさせたもので、それを引き継いだもの。校内に文房具の寄付を呼びかけ、集まった文房具はＮＧＯを通じて途上国へ発送した。残念ながら発送できなかった文房具は、学童保育園を通じて地域の小学生へ贈られた。

活動にご協力くださった皆様、ありがとうございました。

音訳ボランティア

視覚障害者支援活動の一つである音訳について学び、障害者福祉への理解を深めようと、７月26日、出前授業「視覚障害者のための音訳ボランティア」が本校で開かれ、生徒22名が参加し、音訳について学んだ。

日赤奉仕団八戸分団「むつぼし友の会」で音訳に取りくむボランティアスタッフ３名が、活動内容を紹介した。生徒は発声練習や録音作業も体験し、音声で正確に情報を伝える支援の必要性や難しさを実感した。

Reduce：ゼロから始める羊毛細工

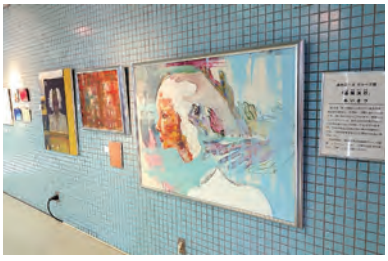
現在本校では、NPO法人階上フロンティアから廃棄する羊毛を受け取り、ゼロから羊毛細工を作る学外学習を行っている。服飾文化を学ぶ機会とし、さらに産業廃棄物を減らすReduce（リデュース）活動として発足したもの。

生徒たちは未加工の羊毛を協力して洗浄し、自分の好みの羊毛細工（マスコットなど）を作ることになっている。加工が終わった羊毛での細工制作は各自が自宅でできるため、“おうち時間”の充実が見込まれる。生徒は「毛糸のもとの形状を知ることができ、勉強になった」「これからマスコットを作るのが楽しみ」と語った。

美術コース３年生グループ展

８月12日～27日、美術コース３年生有志によるグループ展「曇天決行」が、八戸市水産科学館マリエント４階で開催された。生徒７人が授業以外で制作した絵画やイラスト、立体作品など30点を展示した。

テーマ「曇天決行」には、コロナ禍では生活必需品ではないかもしれない美術だが、そんな状況下でもアートの魅力を伝えようという思いが込められている。この展示を立ち上げた生徒は「この展示に来た人に、少しでもワクワクしたり、うっとりした時間を過ごしてもらえたら、嬉しい」と語った。



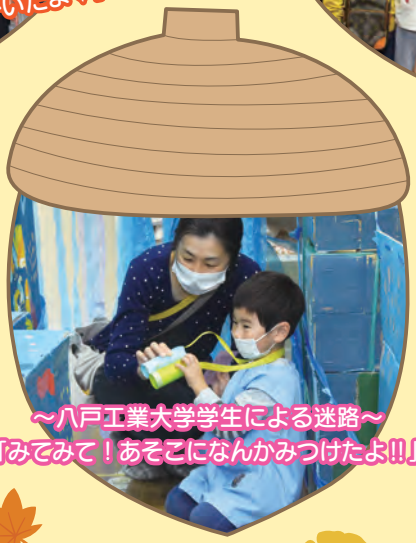
作品展示会

ぼくらはどうぶつたんけんたい
さくらサファリパークでだいぼうけん

「ぼくは、なわとびを
とんでるところをかいたよ♥」

「サファリパークのなかを
たんけんだ～♪」

「サファリバスにのって
ハイチーズ!!」



～八戸工業大学学生による迷路～
「みてみて！あそこになんかみつけたよ!!」

～八戸工業大学学生の作品～
「おおきなハチ、かっこいいね！」

10月２日、子どもたちの作品展示会が開催された。昨年は延期したが、今年は時間や人数などの制限を設け、密にならない状況で内容を変更して行った。

今年は昨年より全国的に新型コロナウイルス感染者が多く、開催が危ぶまれたが、出来る限りのことはしたいと準備を進めてきた。今回は、子どもたちの作品と八戸工業大学感性デザイン学部の先生や学生の皆さんの協力で、工大生による作品や迷路の部屋を設けた。子どもたちの力作や普段見る機会が少ない大学生の作品を見たり迷路で遊んだりと、限られた時間だったが、親子で楽しむ姿が見られてよかった。

卒園児からのメッセージ

Message

場所が変わっても、変わらぬもの

さくら幼稚園を卒園してから、もう20年が経とうとしています。

大学入学に伴い上京後、帰省の際さくら幼稚園を通り過ぎる度に当時の記憶が今でも蘇ります。友達と遊具で遊んだ事、ペチュニアで色水を作った事、1日の最後の肝油ドロップ。親元を離れても尚、頭の中に色鮮やかに残っています。思えば、知らず知らずのうちに学んだ多くの事が今の自分を形づくっているのだと気付きました。

本来、内気だった私ですが、幼稚園の先生方や友達が、周囲の人と交流し輪を広げる事の素晴らしさを教えてくれました。

今は仕事の都合上、海外で生活しています。慣れない環境でも、友人を作り明るく生活できる土台を作ってくださったのは、さくら幼稚園での日々があったからだと感謝しています。

大変なご時世ですが、更に人間として成長できる様、邁進していきます。

外務省 イタリア勤務
大野　倖汰さん
（平成14年3月卒園）

ようちえんってこんなところ

とらんぽりん

～ある日の保育日誌～

満3歳いちご組　9月3日（金）

年少組の運動遊びに参加させてもらった。2学期入園の子は初めての経験だったが、泣いて嫌がる子もなく、「こわい」「どうするの？」と不安そうな表情をしながらも、ほとんどの子が補助を受けながらやり遂げることができた。サーキットを一周すると「たのしかった」と笑顔。「貸してもらえてよかったね。ありがとうだね」と声を掛けると、「ありがとう」と大きな声で感謝を伝えてきた。自分から思いを伝えられるようにこれからも見守っていきたい。

「ちょっと、ドキドキ…。すこしずつ すすむよ！」

年少組　9月1日（水）

部屋に入ってきたオニヤンマを捕まえて虫かごに入れると、皆に見せたいというので、玄関に置いた。その後もずっと気に掛ける子どもたち。帰る頃には動かなくなった。「かえりたいんじゃない」「そうだとおもう」の多数意見。しかし、「いやだ」と虫好きのA君。「おかあさんにあいたいかもしれないよ」のBちゃんの言葉に納得。外へ出て虫かごのふたをあけ、ようやく木の上に飛んでいくと「バイバーイ!!」とホッとした表情の子どもたちだった。

年中組　8月25日（水）

Aちゃんが広告紙を丸めて棒を作り、紙テープをつけてステッキを作っていた。自分の中でアイディアが次々出てくる。その様子を見ていた数人が「おなじものをつくりたい」と集まってきた。「ここはどうするの？」と皆がBちゃんに聞くと、「こうやってまるめてみて…」と優しく教えていた。作りたいものが何とか完成。午後の自由遊びは、出来上がったステッキで盛り上がっていた。模倣から自分なりの発想へつながってくれればと思った。

「ブランコ、たのしいね♪」「いくよー それっ!!」

年長組　8月26日（木）

すいか割り大会が中止となったので、代わりにすいか柄のハンカチを使ってハンカチ落としをしたら、徐々にヒートアップし、皆汗をかき必死に走っていた。その後、ホールで緑色のカラーポリ袋で作ったスイカ風船やフラフープ、鬼ごっこをして遊んだ。久しぶりに思い切り体を動かしたようで「からだがいたい」「あしがいたい」と言う子が多かった。割る予定だったすいかは、給食に出された。それを見ると大喜びの子どもたち。きれいに食べきった。

地域を探る八戸・北東北楽（がく）

７月15日、総合的な学習の時間の一環として第１回校外学習を行い、対泉院・八戸石灰鉱山・九戸城・御所野遺跡を巡り、八戸やその周辺地域における産業や文化に触れた。

対泉院（写真右下）では、1811年以前に建立されたという山門や餓死萬霊等供養塔を拝観、本校教員から天明の大飢饉の様子の説明を受けた。八戸石灰鉱山では、授業で習った露天掘りを間近で見学、スケールの大きさを感じた。九戸城では、東北最古といわれる石垣遺構を見学、九戸政実について説明を受けた。北海道・北東北の縄文遺跡群として世界遺産登録をされた御所野遺跡では、縄文博物館を見学、実際に竪穴住居に入って室内の温度や湿気・太陽光の入り具合など五感を発揮して体感した。

生徒たちは「八戸の近くには、歴史的な建物や、誇れるものが沢山あることを知った。歴史の勉強に、生かしたい」「身近に興味深いものがたくさんあった。興味の分野を広げ知識を吸収し、様々なところへ行ってみたい」と感想を述べた。

「科学の甲子園ジュニア」へ恒例参加

８月７日、青森市の青森県総合学校教育センターで第９回「科学の甲子園ジュニア」青森県大会が開催され、１年生と２年生の代表チームが参加した。

大会は、筆記競技と実技競技が行われた。実技競技の課題は、「厚さの違う２種類の上質紙数枚を使って、おもりの入った球を落とした時、机上から20㎝の高さまでに受け止める構造物を作る」というもので、各チームアイディアを凝らし、時間内の完成を目指し熱心に取り組んでいた。

残念ながら本チームは、構造物は完成したものの球を条件通り受け止められず、入賞を逃した。本校は開校して以来毎回参加しており、平成30年度には準優勝に輝き、全国大会にも出場した。来年のチャレンジに期待したい。

知識と自由な発想力を

７月３日、青森県発明協会より講師の方をお招きし、１年生対象に「知財創造力育成授業」が行われた。この授業は、開校以来毎年実施しており、知的財産権に関する知識を身につけ、同時に自由なアイディアを生みだす発想力を養うことを目的としている。

前半は特許権など身近な権利についての講義が、後半は紙とテープを使用して構造物を作り、その上にカップラーメンをのせて高さを競い合うグループワークが行われた。

講義では話に真剣に耳を傾ける生徒の姿が、グループワークでは積極的にコミュニケーションを取り合い、楽しみながら取り組む様子が見られた。

生徒からは、「難しかったけど、仲間と工夫して完成させられ楽しかった」などの感想が寄せられた。

おかげさまで さくら幼稚園創立50周年

さくら幼稚園は昭和46年４月に開園、今年で50周年を迎える。佐藤政五郎初代園長から数えて、現在の木村喜久子園長は５代目となる。丈夫な子ども、心豊かな子ども、意欲のある子どもを教育目標に、令和３年３月で卒園児は累計５千人を超えた。

理事会・評議員会

◇7月30日　理事会
- 学校法人八戸工業大学「教職員の採用」に関する件
- 八戸工業大学第二高等学校「令和４年度普通科コース改編」に関する件

◇9月27日　理事会
- 「八戸工業大学ガバナンス・コード」制定について

表　紙
八戸工業大学Web同窓会より

蒼穹
Hachinohe Institute of Technology Press SOUKYU
2021(令和3年)　秋号　No.146
[発　行] 学校法人八戸工業大学　〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1　ダイヤルイン案内 (0178)25-3111　FAX (0178)25-2769
八戸工業大学 http://www.hi-tech.ac.jp　八戸工大一高 http://www.kodai1.ed.jp　八戸工大二高 http://www.kodai2-h.ed.jp　八戸工大二高附属中学校 http://fuchu.kodai2-h.ed.jp　さくら幼稚園 https://sakura.hi-tech.aomori.jp